



南海電鉄グループ 中期環境目標(2018年度～2020年度)

◎:目標を超過して達成した ○:目標を達成した △:目標を達成しなかった

環境課題	中期環境目標	2020年度の主な実績	評価
1. 地球温暖化の抑制	(1) 南海電鉄グループのCO ₂ 排出量を12%削減する(対2013年度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海電鉄グループCO₂排出量14.9%削減(対2013年度) (地球温暖化対策推進法に基づく排出係数を用いた算出では34.6%削減) ● 南海電鉄グループエネルギー使用量16.2%削減(対2013年度) ● 政府の2050年カーボンニュートラルに合わせたCO₂排出量削減目標の見直し 	◎
	(2) 再生可能エネルギー(水素エネルギー含む)の活用とBCP対応機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 鋼索線へのCO₂フリー電力導入に向けた準備完了 	○
2. 循環型社会の実現	駅を拠点としたまちづくりの一環としたなんばエリアまたは沿線におけるスマートシティ形成に向けた準備活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 沿線活性化に資するスマートシティ形成に向けた担当部門との協議と合意形成 ● 南海電鉄グループ取水量約17%節減(対2019年度) 	○
3. 生物多様性の保全	(1) 沿線エリアでのピオトープ活動の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ● 多奈川ピオトープ保全活動実施(2020年度 6回) ● 環境省主催「国民参加による気候変動情報収集・分析事業」として、多奈川小学校児童による自然観察会開催(10月) 	○
	(2) 生物多様性保全と農業事業の共同展開	<ul style="list-style-type: none"> ● グリーン調達推進に向けた取引先へのアンケートの実施(100社) 	○
4. 環境マネジメントの深度化	(1) ISO14001の下での環境マネジメントシステムの改善向上とより主体的な運営体制への移行検討	<ul style="list-style-type: none"> ● ISO14001 認証のサーベイランス審査受審、認証継続判定 	○
	(2) 南海電鉄グループにおける環境法令順守管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ● 高濃度PCB、改正フロン排出抑制法、PCB特措法・廃棄物処理法の対応 ● 廃棄物・水の取り扱いに関するアンケート実施(56社) 	○
	(3) 環境ボランティア活動 (ECOニストプログラムの推進) ECOニスト認定 毎年100名 ECOニストアドバンス認定 毎年35名 eco検定合格 毎年35名	<ul style="list-style-type: none"> ● ECOニスト活動 5件 ● ECOニスト認定 190名、ECOニストアドバンス認定 49名 ● eco検定合格 36名 累計 357名(在籍者) 	○
5. 効率的な環境情報の開示	(1) 統合報告書への移行	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要課題(マテリアリティ)の特定や価値創造プロセスの策定の取り組み推進 	○
	(2) 環境PRポスターの発行	<ul style="list-style-type: none"> ● ニュースリリースへ「SDGsロゴ」「リリース内容に関連するSDGsアイコン」の記載 	○
	(3) なんかいの森を活用した新たなオフセット・クレジットの取得	<ul style="list-style-type: none"> ● J-クレジットの取得完了 509t(2019年度分) (2019～2026年度の8年間で約4,000t取得予定) 	○
	(4) なんかいの森の間伐材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ● なんばパークス内のベンチ製作(2019年度)、設置(2020年度) ● なんかいの森の間伐作業実施 20.64ha(2020年度) 	○
	(5) 環境イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍による活動の制限のため、開催中止 	△
	(6) 環境保護団体への寄付	<ul style="list-style-type: none"> ● 計4件の環境保全団体(基金)への寄付実施 	○

【総括】

中期環境計画の達成に向けて各項目で取り組み施策を進めた結果、2020年度はコロナ禍により環境イベントをはじめさまざまな環境活動は制限を余儀なくされましたが、ほぼすべての項目でなんとか目標を達成することができました。

- CO₂排出量については、2019年度より排出係数の考え方を見直し、地球温暖化対策推進法に基づく排出係数を用いて算出することとしました。期間を通じて、省エネ車両の導入や空調設備の更新など削減に努める一方、スカイオの全面開業など業務拡大による増加要因もあり、基準年である2013年度に対して、2019年度の削減率は24.3%、2020年度の削減率はコロナ禍の影響による一部事業活動の停滞もあり35.7%となりました。
- また、鋼索線へのCO₂フリー電力導入などの事業活動における再生可能エネルギー活用の具体化や沿線活性化に資するスマートシティ形成に向けた準備、沿線エリアでのピオトープ活動などの生物多様性の保全についても着実に取り組みを進めています。

- ISO14001については、新規格へ移行後の2018年に更新審査を受審し認証を継続していますが、並行して主体的な環境マネジメントシステム運営体制への移行に向けた検討も進めています。ECOニスト活動も毎年200名程度が認定されるなど、制度が定着し社員の環境への意識啓発に寄与しています。
- 「なんかいの森」J-クレジットは、2020年度新たな取得を目指して申請し、2019年度分から2026年度分まで約4,000tの取得計画が認められ、今回2019年度分の509tを取得できました。